

## 護法堂

奥の院に並んでいる2つの護法堂は、圓教寺の守護神である乙天と若天を祀っている。乙天は智慧の神である不動明王の化身であり、若天は地上の宝の守護神である毘沙門天（Sanskrit語：ヴァイシャラヴァナ）の化身である。仏教の教えの擻猛な守護神として知られている二人は、性空上人（910-1007）が966年に圓教寺を建立し、性空上人が書寫山で修行を始めたときにそれを助けたと考えられている。乙天、若天は当初から圓教寺の守護神として、今日に至るまで寺院の伝承と伝統の中で重要な役割を果たしてきた。圓教寺の年間行事で最も重要なのは、1月18日に行われる平和と五穀豊穡を願う祭典（修正会）である。この特別な日には、緑の神である乙天と、赤の神である若天を表す仮面を被った信者たちが寺院の敷地内を乱舞し、松明を振って鐘を鳴らす。

乙天、若天はこの2つのお堂の中に安置されている。右側が乙天、左側が若天である。厳密に言えば、これら2つの建造物は、神々を収容する建物である「本殿」と見なされる。一般的に、本殿の前に付属する「拝殿」がある。そこは参詣者がお供えをしたり、神々への祭祀を行う場所である。しかし、ここでは、拝殿は切り離され、中庭を挟んでこれら2つの本殿に面している。